

僕には君の心が聴こえなかった。

"ONE FINE SPRING DAY"

# 春の日は 過ぎゆく

「八月のクリスマス」で世界中の美しい涙を集めたホ・ジノ監督最新作。

ユ・ジデ「リベラ・メ」 | イ・ヨンエ「JSA」

製作:キム・ヒョンスン 本音機軸 アラン・ファン プロデューサー:チャンスンジュ、キム・ソナ 監製:禹貞善 脚本:リョウ・チャンハ、イスクワン、シン・ソクイ、ホ・ジノ  
撮影:キム・ヒョクソク 照明:イ・カンサン 編集:キム・ヒョソク 録音監督:パク・ヨンホ 録音:イ・ヒョソク 美術:パク・イルヒョク 音楽:チョ・ソクウ ミキシング:松竹サウンドスタジオ

◆エンディングテーマ「春の日は過ぎゆく」作曲:松任谷由実 作詞/歌:yuna(Jaurim) 編曲:チョ・ソンウ

©2001年 韓国映画製作 199分 53分 カラー ヒスタサイズ SR-D

製作:サイタス、松竹 配給:アプロースピクチャーズ 配給:松竹株式会社 ©サイタス | 松竹 | アプロースピクチャーズ <http://www.shochiku.co.jp> sidus applause picture

『八月のクリスマス』から3年——

# 世界が注目するホ・ジノ監督が描く 珠玉のラブ・ストーリー

## “なぜ愛が変わるんだ”

番組制作のために出掛けた録音の旅で出会ったサンウとウンスは自然に惹かれ合い、愛し合うようになる。だが、サンウが愛にのめり込むほどに、離婚の経験があるウンスは愛に懐疑的になっていく——。

『八月のクリスマス』が変わらない愛の記憶の物語だとしたら、

『春の日は過ぎゆく』では、変わりゆく愛に苦しむ二人の複雑で微妙な感情の流れが繊細に描かれる。

韓国、日本、香港の映画製作者たちが国境を越えて取り組んだ世界中が待ち望んだホ・ジノ監督の最新作!!



“彼女が一番憎い、そして一番好き”  
——イ・サンウ(ユ・ジテ)

20代後半のサウンドエンジニア。年上の女性ウンスと出会い恋に落ちるが、次第に愛に迷い始めた彼女に翻弄され、自分自身をも見失い始める。

### ユ・ジテは言う……

ウンスと別れるシーンを撮影したとき、監督にはサンウは怒っている状態なので先にフレームアウトしろと言われましたが、“先に去っていくことは出来ないと”言いました。だって足が離れないと去っていけないもの。僕はその状況で足を地から離すことが出来ませんでした。



“ラーメン食べてく? 泊まってく?”  
——ハン・ウンス(イ・ヨンエ)

30代前半。離婚の経験がある地方のラジオ局のディレクター。愛する気持ちが変わることを身をもって経験している彼女は、サンウの一途な愛にとまどい、素直に愛を受け入れられない……。

### イ・ヨンエは言う……

自分から背を向けたのに、また会おうかやめようか、別れようか、引きとめようかと戸惑っている時の彼女に一番共感を覚えます。ウンスを通して今まで私の演技生活の結び目を解いたような気がします。



### 監督:ホ・ジノ

1963年生まれ。延世大学哲学科卒業後、韓国映画アカデミーにて映画制作を学ぶ。1998年『八月のクリスマス』で長編映画デビューを果たし、カンヌ映画祭を始めとした数々の国際映画祭で注目を浴びる。『春の日は過ぎゆく』は監督2作目となる。

“変わらないと信じていたものが変わっていくことについて描いてみたかった。心から人を愛し、その愛が壊れてしまったら全てが崩れるような気持ちになりますが、時間が経つとまた違う気持ちに変わっていく。そんな経験を後になって振り返ったとき、その時の感情はどんな風に変わってみえるのか、そしてどんな気持ちが自分の中に残るのだろうか……そんなことを描いてみたかったのです。”

"ONE FINE SPRING DAY"

# 春の日は 過ぎゆく

製作:キム・ヒョンスン 大谷信義 アラン・ファン プロデューサー:チャ・スンジェ キム・ソナ 宮島秀司 ビーター・チャン 監督:ホ・ジノ ユ・ジテ イ・ヨンエ  
2001年 | 韓国3国合作 | 1時間53分 | カラー | ビスタサイズ | SR-D 製作:サイダス | 松竹 | 衛星劇場 | アプローズピクチャーズ 配給:松竹株式会社 <http://www.shochiku.co.jp>

## 《2002年 ロードショー》

シネ・リー・パルメ田